

DATA FILE



ろっぽうしょうけい
六方晶系

名前	RUBY (ルビー) / 紅玉
化学組成	Al ₂ O ₃
色	赤色
光沢	ガラス光沢、ダイヤモンド光沢
蛍光	赤色のことが多い
条痕	白色
劈開	なし。ただし、面に対して垂直か、垂直軸に対して30度に裂開ができることがある
断口	貝殻状、凹凸状
硬度	9
比重	4.0 ~ 4.1

ルビー

RUBY

ハンマーなどでたたくと貝殻状や凹凸状の断口があらわれる。

ガラスのような光沢があらわれている。

ルビーとは、微量にクロムを含むため赤色になったコランダム。色が濃いものほど、価値がある。

六角形の結晶。



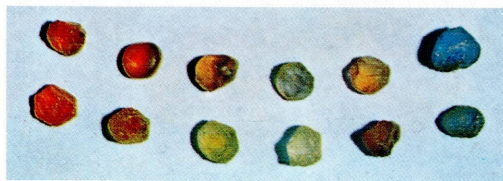
包有物としてルチルを含むものは、光を当てると星のような輝きが浮かびあがる。このようなものをスタールビーと呼ぶ。

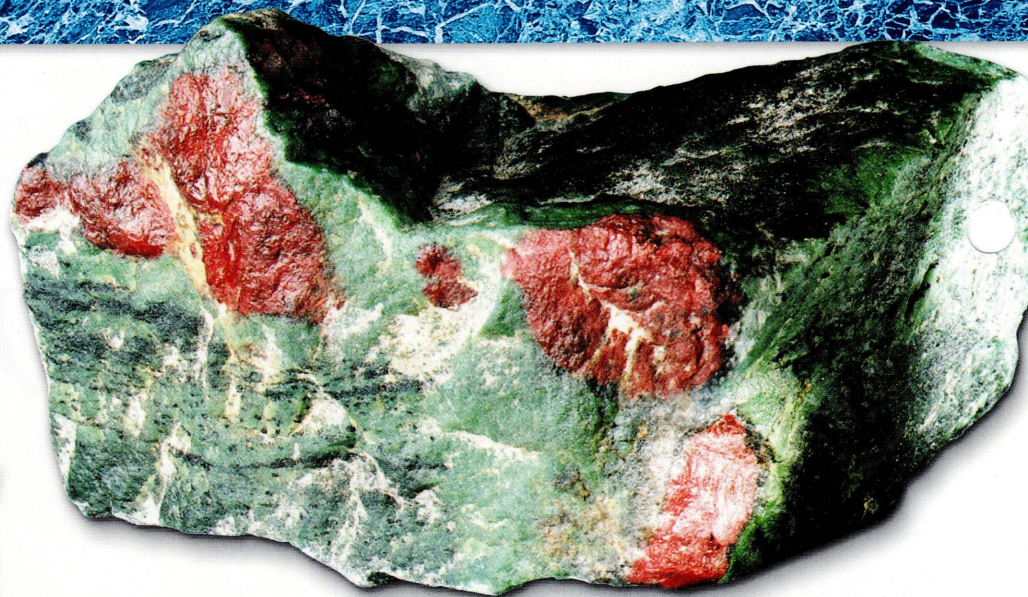
インドで産出したルビーの標本。



コランダムのグループ

コランダムには、赤色や黄色、緑色、青色、オレンジ色などを示すものがあり、そのうち赤色をルビー、それ以外をサファイアと呼ぶ。一般にサファイアと呼ぶ場合は、青いものを指す場合が多い。





▲タンザニアから産出したルビー。

赤色のもととはクロム

コランダムの中でも、クロムを含むために赤色をしたものをルビーという。クロムの含有量が多いほど、赤い色が濃くなり、価値が高い。とくに濃い赤色のルビーは「ピジョンブラッド(鳩の血)」と呼ばれ、とても高価な宝石だ。



▲19世紀につくられたルビーのブローチ。

ル
ル
ビー

人工ルビー

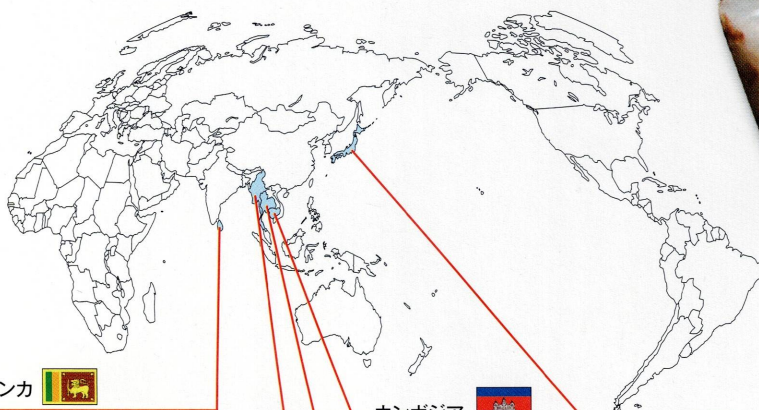


7月の誕生石として知られるルビーは、人工的につくられた初めての宝石だ。装飾品などに利用されるほか、色が目立ち、硬いため、電子製品や精密機器などの部品にも用いられている。



▲石灰岩の中から見つかったルビー。ミャンマー産。

主な産地



スリランカ

ラトナプトラが有名。ラトナプトラという地名はスリランカの言葉で「宝石の街」を意味する。

ミャンマー

首都ヤンゴンの北にあるイラワジ川をはさむ谷間は質の良いルビーがとれることで知られる。

カンボジア

パイリンで産出する。

タイ

チャンタブリー地方が有名。

日本

愛媛県や岐阜県でとれたという記録があるが、宝石になるような質の良いものは見つからない。

ルビーが見つかる場所

ほとんどのルビーは、玄武岩や変成岩などの岩石中に存在する。長い年月の間にルビーを含んだ岩石が崩れ、川に流されたものが、砂利や泥と一緒に堆積していることが多い。